

会 長 挨 拶

青森県小学校教育研究会理科部会長

青森市立浜館小学校長 成田 達哉

コロナ禍による教育活動への影響は計り知れないものがあり、今後の学校生活のあり方に、全国の先生方が頭を悩ましていることと思います。さらに新学習指導要領の完全実施とも重なって、令和2年度のスタートは苦難のスタートと言わざるを得ません。しかしながら昨年度は、青森市においても、これまでどおりたくさんの部会員のみなさんに支えられて、授業研究や研修・サイエンス教室等のイベントを行うことができました。活動して下さった部会員の皆様には感謝の一言です。きっと各支部も同様のことと推察いたします。また、県大会として実施している児童生徒理科研究発表大会でも、県内各地から36人の参加者がすばらしい研究発表を行い、成功裏に終えることができました。県内各地の関係者の皆様の努力に本当に感謝いたします。

さて、今年度、現時点ですでに多くの研修会、大会、イベントが中止となっており、理科部会に限らず大幅に教育活動が縮小しております。弘前市での理科県大会の中止、全小理福岡大会の誌上発表と、大変残念な連絡が入っております。また、各校、校内の学校行事の精選と授業時数の獲得に策を巡らしていることと思います。子どもたちにとって、たくさんの行事がなくなり、辛く悲しいことが多い中、それでもなんとかできる行事や3密対策を施した活動を計画し、学校生活を立て直そうとしていることと思います。

昨年のお挨拶で、劇的に変化する社会に対応していく子どもたちを育てていかなければいけないと述べましたが、皮肉なことに子どもたちの前に、我々教師がその変化に対応していかなければいけない時となりました。青森市内は遠隔授業の体制構築に取り組んでいます。AIドリルの活用も進んできました。今できることを精一杯考え、どんな状況下においても、目の前の子どもたちの学習機会をしっかりと確保してあげられるよう努力していきたいと思っております。